

豆分

した方の眼を出して三十人  
山賊の群を眺むる事が出

は眼珠の横に外れてゐたのを、  
から引ずり出された。其時  
は眼力を失ふてゐるので  
而しながら、惡い目論見  
でナイフの切先が内面の  
せてゐたものと見え、世良田  
けた十七ヶ處の傷の内、此  
の類ひとなつたもの事々  
と良田大佐を導傍に引ずり出  
る。然るに彼奴等は  
血が流れてゐるので世良田  
つて倒れてゐるのを見て、最  
のであると思つたらしい。  
一々彼奴其の容貌を見覺へ  
たらば一人々に絞罪に處  
考へてゐる。

-87-

一種奇物であつて、紫色の服  
それに刺を下げてゐる、う  
の布を巻き付けて。  
山道の急に曲り角になる居  
る衣を二つ纏ひ、  
それで以て馬車が顛倒したの  
に化けてゐた麒麟奴は以前  
に化けてゐる場所を能く知つて  
に若く以前に世良田が抵抗  
して置かうと云ふ氣を採つて  
は明白であつた。  
けてゐた仲間を馬車の中から  
世良田は爲に随分驚かす  
るから皆々非常に憤慨をす  
るけれど彼の化け坊主奴の呼  
びなかつたにせよ世良田

ないのだ、仲間の方等には彼  
したか、腰から下は悉く萎へ  
しも役に立たぬ、其身体の  
痛みと両方で首の廻つてゐ  
らしくはまた化け物主の魅  
光りを放つて世良田を脱み  
して、彼奴は世良田の方に向  
つて吐きつて吐きするの

した方の眼を出して三十人  
山賊の群を眺むる事が出

は眼珠の横に外れてゐたのを、  
から引ずり出された。其時  
は眼力を失ふてゐるので  
而しながら、惡い目論見  
でナイフの切先が内面の  
せてゐたものと見え、世良田  
けた十七ヶ處の傷の内、此  
の類ひとなつたもの事々  
と良田大佐を導傍に引ずり出  
る。然るに彼奴等は  
血が流れてゐるので世良田  
つて倒れてゐるのを見て、最  
のであると思つたらしい。  
一々彼奴其の容貌を見覺へ  
たらば一人々に絞罪に處  
考へてゐる。

-87-

一種奇物であつて、紫色の服  
それに刺を下げてゐる、う  
の布を巻き付けて。  
山道の急に曲り角になる居  
る衣を二つ纏ひ、  
それで以て馬車が顛倒したの  
に化けてゐた麒麟奴は以前  
に化けてゐる場所を能く知つて  
に若く以前に世良田が抵抗  
して置かうと云ふ氣を採つて  
は明白であつた。  
けてゐた仲間を馬車の中から  
世良田は爲に随分驚かす  
るから皆々非常に憤慨をす  
るれば彼の化け坊主奴の呼  
びなかつたにせよ世良田

ないのだ、仲間の方等には彼  
したか、腰から下は悉く落し  
しも役に立たぬ、其身体の  
痛みと両方で首の廻つてゐ  
らしくはまた化け物主の魅  
光りを放つて世良田を脱み  
して、彼奴は世良田の方に向  
つて吐きつて吐きするの

した方の眼を出して三十人  
山賊の群を眺むる事が出

は眼珠の横に外れてゐたのを、  
から引ずり出された。其時  
は眼力を失ふてゐるので  
而しながら、惡い目論見  
でナイフの切先が内面の  
せてゐたものと見え、世良田  
けた十七ヶ處か傷の内、此  
の類ひとなつたこと事々  
と良田大佐を導傍に引ずり出  
る。然る處、其内に彼奴等は  
血が流れてゐるので世良田  
つて倒れてゐるのを見て、最  
のであると思つたらしい。  
一々彼奴其の容貌を見覺へ  
たらば一人々に絞罪に處  
考へてゐる。

-87-

一種奇物であつて、紫色の服  
それに刺を下げてゐる、う  
の布を巻き付けて。  
山道の急に曲り角になる居  
る衣を二つ纏ひ、  
それで以て馬車が顛倒したの  
に化けてゐた麒麟奴は以前  
に化けてゐる場所を能く知つて  
に若く以前に世良田が抵抗  
して置かうと云ふ氣を採つて  
は明白であつた。  
けてゐた仲間を馬車の中から  
世良田は爲に随分驚かす  
るから皆々非常に憤慨をす  
るけれど彼の化け坊主奴の呼  
びなかつたにせよ世良田

ないのだ、仲間の方等には彼  
したか、腰から下は悉く落し  
しも役に立たぬ、其身体の  
痛みと両方で首の廻つてゐ  
らしくはまた化け物主の魅  
光りを放つて世良田を脱み  
して、彼奴は世良田の方に向  
つて吐きつて吐きするの

ので丁度怪我した方の眼を出して三十人  
居ると思はれる山賊の群を眺む事が出  
た。

眼に受けたのは眼珠の横に外れてゐたのであるから、箱馬車から引ずり出された真鍮の事を覺つた、而しながら感心の目論見の初めに眼から眼が失ふてゐるのであるに世良田は全く眼力を失ふてゐるのであるに、それでナイフの切光が内幕の紐を少し引はせてゐたものと見え世良田一生の内に受けた十七ヶ處の傷の内、此の傷が一番將來の類ひとなつたこの事であるが、世良田は世良田大佐を尊佛に引ずり出して打つ腕、激る腕、其内に世良田は良田の顔から血が流れてゐるのを見て、氣絶してゐるのであると思つたらしい、間に世良田は一寸彼奴其の容貌を見、竟今世に世良田が来たのだと考へてゐる。

肺膵の服裝は一種奇特であつて紫色の服  
 赤の帶をしめそれに剣を下げてゐる、う  
 と頭には黄色の布を巻き付けて  
 群は覺てより山道の急に曲り角になる居  
 處へ探んで大きな石で二輪がして居い  
 るのである、それで以て馬車が顛倒した  
 り、而して老僧に化けてゐた騾類は以前  
 の此伏兵が隠れてゐる場所を能く知つて  
 た爲に其處所に着く以前に世良田が抵抗  
 するの模様にして置かうと云ふ策謀と探つ  
 てゐるのである。

「さういふ體ではないのだ、仲間、奴等には彼を引立てやうとしたが腰から下は悉皆悉へ了つた足が少しも役に立たぬ、其身体は半分は朽ちて痛みと両方で首に懸つてゐるけれど」

造は最も親切らしくはまたたけ持主の駄馬は恐ろしい光りを放つて世良田を喰ひかてゐる、そして彼奴は世良田の方に向つて、つば吐き、つば吐きつは吐きするの



社說

去る七ヶの輪廻  
 流るる七ヶの輪廻  
 しや。僕も世間よ斯る滑稽至極の現象ある可  
 (何尊の滑稽や御前會議の流會)

明音電

鹽は一等要塞地とせられカスベク少將司令官となる全地の非戦闘員も凡て立退き命ぜられたり

方面敵報十一冊

沙河方面敵報は毎日我陣地各所を砲撃し手達堡西南に新たに廿四門の砲壘を構築せり

(同) 午後五時

露國諸大公の講和會議の確ある説として  
歐洲各國に信ぜらるる  
日米仲裁定約成る

（同日午後五時六分發）  
十三日七時五十分發

新入館

十一日の紐元貨市  
にワシントン府に於  
て調印を終りたり  
の公報ありたり

● ● ● ● ●  
方面戰況（九日某所發）

◎沙河方面戰況（九日支所發電）  
日唐軍屯集歸子小輝台（鎮江堡の地方に在り）附近の敵騎兵は我陣地の各所を砲撃し、七日夜一、二小隊の敵歩兵は馬園子山麓に屯附近に來襲せしむる前哨は悉く之を殲滅せり。方家園子、李大屯、楊旦堡、及湯溝寨の方面にありては敵兵防禦工事を繼續しつゝ、

書を擇良き置らしを以て

四月三日、國書を捧呈し、慶賀のしを以て、自今南  
 陽公氏は、明日外藩に退告して、行く。本官は  
 同日、國書を捧呈し、慶賀のしを以て、自今南  
 陽公氏は、明日外藩に退告して、行く。本官は  
 同日、國書を捧呈し、慶賀のしを以て、自今南

と題して、その文句は、

坑を採掘し磨りしる般支償は其趣意は  
に決し此程外部に照會して右技師の雇

他之に類似したる業務を司かるものは、尤も其時該女をへく而して婦人に對する日語教育の設備も整はれば充分を有するものゝ多し往て教育の欠くる處と云ふ事なり日常品の物價等は莫く再報せし（二月四日）

### ●京城の仁川紀念日

京城在留の官民は去九日午後五時より日本人俱樂部に於て聯合紀念會を開き同日七時よりは日本公使館に於て祝賀の儀し爲さる

### ●京城交通機關開通式

京釜鐵道線中京域平壤間の既り開通せし事は既に此の如くなるが去る二十九日午後に於て盛大なる開通式と舉行せし

### ●本邦舞臺大連の開演

韓公債及義海領事館其等の重宝たる舞臺は去八日午後三時半開演以來大成功とし半日の座客を満せて取りなると云ふ

### ●官制の改定表期

韓國の官制改定は未だ概かゞ發表せられざるものと實際は未だ概かゞ發表せられざるものと

佐賀	二一〇
熊本	二〇〇
鹿兒島	一八〇
冲繩	一〇〇
北海道	一〇〇

せる第三區衛生部長及副部長選舉に於て  
第三區組長副組長選舉  
昨十三日開會

分	四五三
佐賀	二一〇
熊本	二〇〇
鹿兒島	一八〇
冲繩	一〇〇
北海道	一〇〇

石川 岩後  
直志  
有光

山本 照堂の衆公  
常駐留地在勤巡查山  
本幸作氏は今回金三千圓を歸寧に金五圓を  
南軍に恤災費として献金申出たり

依前免職  
釜山小學校教員原田九明  
氏は依前職務と追せられたり

假小學校と授業開始  
緒結と告ぐるに間近なり居れば来る二十頃  
授業開始に至るべしといふ

新任小學校校長着任  
香港小學校に赴任すべき高橋智氏は目下  
事務整理中にて幾日も奉る廿六七日は迄は着  
任せらるゝならんといふ

紙印畫は最も得意とする處なりと  
へり▲此高所なる印章は例より見るも  
諸の眞實して日を送つて依頼者の數を増  
今更其の總てに代する四五數に増え  
早晩此價值ある印章が一般に通用する事  
事とは大抵寫真而已にてと寫眞の  
師には最も能なる折々昨年十二月賞與料を  
けたる結果時に割引の相續あり一切切  
り感せず其代り乾板銀紙其地產品等是最  
高價の者を用ふる程細の如きは普通の改良  
加へ斬新高尚なる各條の者を求むべき同  
原料直上げに類なることを感ずるべく以  
の減じては客へは手取に親切なれ▲人々  
は無暗に陥らぬ勿れ而も決して無情なる勿  
▲遺物の往復に時間を費すす勿れ▲遺物  
交際を以てするよりも實力に因て客を招  
事に備へる少将 昨日自公署專車にて入  
來れ直ちに京城に赴かる

昨日午間入港五

○船大丸 廿四日元山に回航  
○手取川丸 十七日入港  
○蒼龍丸 昨日郡山本浦に回航  
○パールキン 十五日仁川に回航  
○安東丸 昨日午前入港午後本邦に回航  
○義州丸 十九日入港同日本浦仁川に回航  
○アムール 十六日午後入港同日大板回航  
○郡山丸 十八日午後入港同日大板に回航

を節約する心の慎重とを

て情慾を節約する心の慎重とを有するにあらすれば利己軍國の民として獨逸立る能はざるなり

▲其機襟の潔白なる無垢の鏡面の如く

理の清淨なる無瑕の白玉の如き庶民露

の意を有する者にあらすれば到底軍

之れを敬し他をして敬愛

優るは之れを教し他をして敬愛の心を  
しめ信義の爲めは身を塵芥の如く捨  
つゝみず他と對したるとは堅さと金鐵の  
て食言せざるの硬意を有する者にあら  
は到底軍國の民として獨立邁歩する能  
なるなり

して熟思實慮を以て國家

▲親疏を問はず愛憎の別なく利の爲め  
にあらすんは到底軍國の民として獨立  
する能はざるなり

東京通信

●東京通信 (二日、月)

▲政友會代議士總會、七日午前十二時、院内に於て開會し、外關、貨幣、街道、及浮屠の二法案は、委員長報告通りに可決し、次山正和より提出せし市街地、市價修正案を、概して議決せんとの發議ありしが、同案は、目下政府との妥協條件中にある

修正建議案は議會に上

上石田眞修正建議案は議會で手續を経  
程に上つたことに一決して午後二時散會  
▲進歩黨代議士會 七日午前十一時同  
都に於て開會鳩山田村夫より同日迄の衆  
議事日程を報告したる後川島龍藏は屠  
業及養畜市場法案を議會に提出する同

一に取巻ふ事に決し其体

案ど同上に取扱ふ事に決し其他二三の  
あきで飲食せり

房として收容し居る敵

▲藥組員へ護手二義足なりと云ふ  
 ▲大御心 天皇陛下には敵害の折柄抄  
 陣の左翼軍溝台の大倉敷に引續き各方  
 及びる彼我の砲火闊斬なき昨今減敵下  
 の辛苦及び氣候に伴ふ傷病者の状況等  
 し一方ならず御念あらせられ給ひて是

自衛下命せられぬ

▲東郷大將の出發　徹夜ありて、東京よりしたる聯合艦隊司令長官東郷大將は廿日午後四時三十分其の幕僚を従へ湖風の胡北の空を睥睨し華かなる榮ある暮笑に輝く光輝を背にして任地へ赴き北戸海峽に至りては大巨艦連珠を率

はかりにて頼るまかるん 旺さかんなるん 淫よみ

意一万はかりにて頗る狂なる送別なり  
▲義勇艦隊の内親改正 同艦隊にては  
内親を改正し自ら贈金せざるも贈金贈  
紹介せし者よは贈金者に準じ紹介金額  
四百五十圓千圓の三種に別ち前二者は  
の徽章を贈與するものとせざれり

迄の例なるが時下日に鑑

はあれ迄の例なるが時下日に氣候の關  
なり行くと共に一方には奉天攻陷の日  
に迫り居るを以て人氣何となく引立居  
▲氣候、寒の中の氣候は左程にてもな  
しが節分のあけたる昨今は寒氣甚だし

新主を以て

有様なり  
梅花。春まだ寒き頃ながら日當り良  
熾なる湯島天神社境内の梅花は今や見  
雪を傾けて芳香を放てり日比谷公園園  
梅も漸く昨今咲き初めたり江東梅園  
川杉田蒲田龜井あたりに來る十  
頃よりは見事なるへし

露國ウ井ルナ監獄の在り

それは露國ヲキルル監獄の在監囚徒は悉く地上  
遇ふ幾處を慣らし、官給の食物は盡く地上  
抛りて同盟斷食を繼續中であること▲沙  
在の露軍は今に同盟投降でも聲明する  
知れぬナ▲露軍の一大佐が或る羅紗製羽  
の許に來り、羅紗約五百萬尺を買上げ

果もで解らば羅刹は

納めよ、果して然らば羅刹は何等の慘  
用ひずして受取らんと△同製造家は、







